

<研究主題>

すすんで考え、学び合い、思考を深める児童の育成
～国語科における話す・聞く活動を中心として～

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名

単元名「詩を味わおう」【読む】

教材名「詩の楽しみ方を見つけよう」

「雲」「ねぎぼうず」「耳」「一ばんみじかい抒情詩」「静かな 焔」「土」
「未確認飛行物体」

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・内容や描写を捉え、優れた叙述を味わいながら、自分なりに工夫して音読したり、その詩のよさを楽しむ方法を考えたりすることができる。
- ・詩に用いられている表現の工夫に気づくことができる。
- ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。

(2) 評価規準

| 国語への 関心・意欲・態度 | 話す 聞く 能力 | 書く 能力 | 読む能力 | 言語についての 知識・理解・技能 |
|--------------------------------|----------------|----------|--|-------------------------------------|
| ①詩の内容や表現のおもしろさを楽しみながら読もうとしている。 | | | ①詩の内容が伝わるように音読している。 ②優れた表現に着目し、気に入った詩を見つけている。 | ①比喩などの表現の効果に気づき、語感や言葉の使い方に関心をもっている。 |

3 単元について

(1) 児童の実態

① アンケートによる実態

学級で、国語に関するアンケートを行った。

<アンケート結果>

(33人回答)

| | | はい | どちらかと いうと はい | どちらかと いうと いいえ | いいえ |
|---|------------------------------|----|--------------------|---------------------|-----|
| 1 | 国語の学習は好きですか？ | 8 | 10 | 9 | 6 |
| 2 | 班の友達に自分の意見や考えを話すことは好きですか？ | 14 | 5 | 10 | 4 |
| 3 | みんなの前で自分の意見や考えを話すことは好きですか？ | 7 | 8 | 9 | 9 |
| 4 | 友達と話し合いながら学習することは好きですか？ | 14 | 12 | 5 | 2 |
| 5 | 聞き手にわかりやすいように、考えて発言していますか？ | 5 | 21 | 5 | 2 |
| 6 | 話している人を見て、うなずきながら聞いていますか？ | 14 | 11 | 5 | 3 |
| 7 | 話している人が何を伝えたいか、考えながら聞いていますか？ | 16 | 11 | 6 | 0 |

「国語の学習は好きですか？」の結果から、約半数の児童が国語の学習に対して苦手意識をもっていることが分かる。読書をする児童が多い反面、学力があまり高くない児童が多いことから、児童は「テストの点数が悪い＝嫌い」と短絡的に考えているのかもしれない。また「班の友達に自分の意見や考えを話すことは好きですか？」「みんなの前で自分の意見や考えを話すことは好きですか？」でも否定的な結果となった。理由は自分の考えに自信がもてないことがあげられる。「友達と話し合いながら学習することは好きですか？」の項目では、多くの児童が肯定的に考えていることから、自分の考えが他の人と違うことを不安に思っていると考えられる。

4月に担任してから、教材から色々なことを感じ取り、自分の考えをしっかりとつことが大切だと指導してきた。また、友達と意見が違うからこそみんなで学習する意味があるのだと伝え、グループ学習を多く取り入れてきた。しかし、まだまだ浸透していないという結果となった。

「話している人を見て、うなずきながら聞いていますか？」「話している人が何を伝えたいか、考えながら聞いていますか？」では、比較的良い結果となっているが、実際には授業中に集中が途切れる児童が多く、指示が通らないことが多い。

②日常の実態

「話すこと」

発問に対して自分の考えをしっかりとつことができない児童が多く、授業中に意欲的に挙手して発言するのは一部の児童に限られている。グループで話し合い活動をする中で、自分の考えを話す機会を増やしている。また、発言する時の声が小さいために、1学期には、毎日日直がみんなの前で詩の音読を行った。2学期にはテーマを決めてスピーチ活動を行っているが、事前に話す内容を決めてからでないとうまに話せない児童が多い。

「聞くこと」

授業中に学習の指示をすると聞いていなく、間違った学習をしてしまう児童が多い。聞いていなくても、周りの人がやっていることに合わせればよいと考えている。また、発問の意図を捉えられずに発言してしまうことや、話し合い活動を行っているうちに話がそれてしまうことがある。2学期から行っているスピーチ活動では、スピーチ後に意図的に質問させる活動を通して日常的に聞く力が身に付くように指導している。

(2) 単元設定の理由

本単元は、詩を読み味わって楽しむとともに、生活の中にさまざまな詩を取り入れて楽しむことができるようになっていく。これらの詩は、児童が豊かに想像を膨らませ、自由に思いをはせたり、詩を読むことの楽しさを味わったりすることができるような、着眼点や発想が独特であったり、表現が豊かであったりするものが選ばれている。

自分が気に入った詩を「どのようなときに」「どのような方法で」楽しむのかを考えることは、児童がこれまでに学習してきた、詩に対する感覚を豊かにするとともに、児童がより豊かで自由な、詩の味わい方の世界に目を向けることにつながる。気に入った詩を自分の生活の中で楽しむことで、単なる情報伝達にとどまらない、ものの見方・感じ方を表現するという言葉の働きに気づけるようになりたい。

(3) 教材文の分析

「雲」・・・空に浮かぶ雲に呼びかけるように書かれた詩は、1行目の「おうい雲よ」の音読のしかたから考えさせ、音読を楽しませたい。

「ねぎぼうず」・・・たった1行の詩であるが、そこから明快な楽しさが伝わり、爽快な気持ちにさせてくれる。比喩表現を学ばせたい。

「耳」・・・作者はなぜ自分の耳を「貝の殻」にたとえたのか、作者が懐かしんでいるのはどんな響きなのか、児童に想像させたい。

「一ばんみじかい抒情詩」・・・小さな「涙」と大きな「海」が対比されている。人間が流す涙が、なぜ海につながるのか、涙をどんな点を思っ海にたとえたのか、児童の自由な発想を引き出したい。

「静かな 焔」・・・この詩は、1つ1つの言葉の美しさを感じさせ、静かな中にも凜とした表情を感じることができる。「一つの」ではなく「各つの」としたのはなぜか。単に比喩が

用いられた作品として終えるのではなく、個々に解釈させたい。

「土」・・・アリの引くチョウの羽がヨットの帆に、たくさんのアリの波のように見えたのかもしれない。なぜ題名が「土」なのか、児童にイメージ豊かに考えさせたい。

「未確認飛行物体」・・・タイトルを聞いて想像力をかき立てられる教材である。葉岳が空を飛び、花に水をやって戻って来るといった空想的な内容、表現の仕方やリズムなどは分かりやすい詩である。常識や現実にとらわれることなく、空想の世界にたっぷり浸って詩を味あわせたい。

4 目指す児童像に迫るための手立て

【高学年分科会の目指す児童像】

話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えを広げたり深めたりして考えをまとめることができる子

_____（下線部）は「話す・聞く」の手立て

(1) 授業展開・形態の工夫

- ・コの字の学習形態をすることで教室中央に視線が向かい、全員が顔を合わせて授業に参加しやすいようにする。
- ・「詩を読む5の観点」(①題名 ②リズム ③中心語・文・くり返し ④語り手 ⑤技法と効果)を段階的に取り上げ、指導していく。

(2) 学習活動の工夫

- ・詩の題名や一部を隠して黒板に提示し、想像させたり、作者の着眼点や発想、表現の工夫について考えさせたりするなどし、詩からイメージを広げさせる。その際、児童が想像したことが正解であるかどうかにはこだわりのではなく、あくまでも自由な感じ方を大切に楽しく学習が進められるように配慮する。さらに自分がそのように想像する理由も合わせて発言させる。
- ・詩に表現されている世界を自分なりにイメージして絵で表すことにより、詩の表現をより深く捉えさせる。
- ・教材文提示の際、最初から全文を示すのではなく、一連、二連と順番に提示することで学習内容に注目させ、深い読み取りを促す。
- ・話し合いをする際には、グループ・全体というグループ構成をねらいに応じて使い分け、効果的で効率的な話し合いができるようにする。

(3) ICT 機器タブレットの工夫

- ・詩には難しい言葉やなんとなく分かるが詳しい意味までは知らない言葉が多い。タブレットの辞書機能で調べ、分からない言葉の意味を一つ一つしっかり理解したり、画像を実際に見せたりすることで、詩の世界のイメージをしやすくする。
例：ねぎぼうず、焰 等
- ・音読をするときには、動画を撮影して振り返りながら学習できるようにする。
- ・隠した題名や詩の一部は、タブレットを活用して解答をみんなで共有できるようにする。

5 単元の指導計画（全4時間）

| 次 | 時間 | 各時間の目標 | 主な学習活動 | ●指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） |
|---|-----------------------------|---|---|---|
| 一 | 1 2 3 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> ・「雲」「ねぎぼうず」「耳」の詩を読んだ感想を交流し、詩を楽しむことができる。 ・「一ばんみじかい抒情詩」「静かな焰」「土」の詩を読んだ感想を交流し、詩を楽しむことができる。 ・「未確認飛行物体」の詩を読んだ感想を交流し、詩を楽しむことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3つの詩を読み、気に入った詩を選ぶ。 ・気に入った詩を、気に入った理由とともに発表し合う。 ・「雲」を自分なりの表現で音読する。（動作化） ・3つの詩を読み、気に入った詩を選ぶ。 ・気に入った詩を、気に入った理由とともに発表し合う。 ・今まで学習した6つの詩の中から1つを選び、絵をそえて画用紙に書く。（イメージ化） ・「薬缶」の部分をブランクにし、何が入るか考える。 ・「薬缶」がなぜ「夜ごと、こっそり台所を抜け出す」のかを想像する。 ・「白い花」が暗示しているものは何かを考える。 ・作者がこの詩で伝えたかったことを考える。 ・音読か画用紙に書くかを選択し、自分なりに詩を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「詩を読む5の観点」を指導する。 ①題名 ②リズム ③中心語・文・くり返し ④語り手 ⑤技法と効果 ●児童の自由な感じ方を大切にして楽しく学習が進められるように配慮する。 ◇詩の内容や表現のおもしろさを楽しみながら読もうとしている。【関】（観察・ノート） ◇優れた表現に着目し、気に入った詩をみついている。【読】（観察・発表） ◇語感や言葉の使い方に関心をもっている。【言】（発表） |
| 二 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・詩の楽しみ方を考え、教科書にある詩や集めてきた詩などから気に入ったものを選んで、楽しむことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・気に入った詩の楽しみ方を考える。 ①音読する ②画用紙に書いてかざる ③手紙にそえる 等 ・考えた楽しみ方に沿って詩を楽しむ。 ・どんな詩をどのようにして楽しんだか、発表し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●教師があらかじめ考えておいた例を示すことで、「詩の楽しみ方」の選択肢を広げ、児童が楽しみ方を考える際の手がかりとさせる。 ◇優れた表現に着目し、気に入った詩をみついている。【読】（観察・発表） ◇語感や言葉の使い方に関心をもっている。【言】（発表） |

6 本時の指導（3／4）

(1) ねらい

- ・「未確認飛行物体」を読んだ感想を交流し、詩を楽しむことができる。

(2) 展開

| 過程 | 主な学習活動 | ●指導上の留意点 | ◇評価内容と方法 |
|----|---|--|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を確かめる。 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">詩を読んだ感想を交流し、詩を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩の題名だけを提示し、児童に自由に発言させる。 「詩を読む5の観点」①題名 | |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・「薬缶」の部分を空白にし、何が入るか考える。 【個人・タブレット全体】 ・「薬缶」がなぜ「夜ごと、こっそり台所を抜け出す」のかを想像する。 【個人・グループ・全体】 ・「白い花」が暗示しているものは何かを考える。 【個人・全体】 ・作者がこの詩で伝えたかったことを考える。 【個人・グループ・全体】 ・「未確認飛行物体」の詩を音読するか画用紙に書くか選んで楽しむ。 【個人・グループ】 | <ul style="list-style-type: none"> ●第一連の「薬缶」の部分を空白にしたものを提示し、何が入るかを考えさせる。第二連を提示し、前後の表現から予想させる。 ●解答はタブレットで行い、全体で確認する。 「詩を読む5の観点」③中心語 ●第三連の「そのあげく」までを提示し、薬缶の形状や特徴を参考にしながら個人で考えたことや想像したことをノートに記入し、グループで意見を交換し合い、全体で共有する。 ●最後まで作品を提示し、薬缶の行動の意味を示す。 ●白という色のイメージや詩の表現を参考にしながら個人で考えたことや想像したことをノートに記入して、全体で話し合う。 ●詩の表現を参考にしながら個人で考えたことや想像したことをノートに記入し、グループで意見を交換し合い、全体で共有する。 「詩を読む5の観点」④語り手 ●作者がこの詩で伝えたかったことを考えながら音読したり、画用紙に書いたりする活動を児童に自由に選択させる。 ●音読はタブレットを使用してグループで行い、画用紙は個人で取り組む。 | <p>◇語感や言葉の使い方に関心をもっている。【言】（発表・ノート）</p> <p>◇詩の内容や表現のおもしろさを楽しみながら読もうとしている。【関】（動画・作品）</p> |

| | | | |
|-----|-------|---|--|
| まとめ | ・発表する | ●何人かの児童を取り上げ、音読させたり、画用紙に書いた作品を提示させたりする。 | |
|-----|-------|---|--|

板書計画

詩の楽しみ方をみつけよう
詩を読んだ感想を交流し、詩を楽しもう
未確認飛行物体 入沢 康夫

①□に入る言葉は何でしょうか。

②そのあげく、薬缶は何をするのでしょうか。

③「白い花」とは、何を意味しているのでしょうか。

④この作品を通して、作者は何を伝えなかったのでしょうか。

⑤音読か画用紙に書く方法で「未確認飛行物体」の詩を楽しもう。

「プロジェクター画面」

最初は詩を提示しながら授業を進める。

④の発問ぐらからは、黒板が狭くなってしまいうので詩を右にずらして掲示する。

未確認飛行物体 入沢 康夫

薬缶だって、
空を飛ばないととはかぎらない。

水のいっぱい入った薬缶が
夜ごと、こっそり台所をぬけ出し、
町の上を、
畑の上を、また、つぎの町の上を
心もち身をかしげて、
一生けんめいに飛んで行く。

天の河の下、渡りの雁の列の下、
人工衛星の弧の下を、
息せき切って、飛んで、飛んで、
(でももちろん、そんなに速かないんだ)
そのあげく、
砂漠のまん中に一輪咲いた淋しい花、
大好きなその白い花に、
水をみんなやって戻って来る。